

# 新フェローの紹介

## 安達 弘之 (あだち ひろゆき) 氏

昭和17年7月24日生れ

〔現住所〕埼玉県浦和市塚本  
〔学歴〕昭和41年3月 東京工業大学工学部電子工学科卒業

〔職歴〕

昭和41年4月 日本放送協会(NHK)入局, 経営情報室副部長, 技術局システム技術部チーフエンジニア, 監事事務局副部長, 情報システム室専任部長を歴任。

この間, 昭和55年秋, ヨーロッパ・アメリカにて情報システムの調査研究を実施。

現在, (株)NHK コンピューターサービスに出向中(情報システム運用センター長)。

〔OR学会関係〕DSS研究部会 昭和55~56年度, OR事典編集委員 昭和57~59年度, 研究普及委員 昭和61~62年度, 理事(庶務)平成元~2年度, 会員対策委員 平成元~2年度, 財政問題委員 平成元~3年度, 評議員 平成4~5年度, 丸の内OR研究会企画委員 平成4年度~現在

〔著書等〕経営改善のシナリオ(共著, 日科技連出版社, 1985), 決定理論(日科技連テキスト, 1980), 電気回路のための数学と例解(共著, 東京電機大学出版局, 1986), ほか

安達氏は, 決定理論を含むORの問題解決技法の研究と実務への応用, 企業のためのテキスト編集・講習等を行い, 総合的な問題解決技法の教育・研究普及に貢献された。

また, 長年にわたり, MIS, DSS, SISなど情報システムの分野で活躍され, 情報処理技術とORの発展のために尽力されています。

本学会においても, 理事・各種委員を歴任され, 本学会の運営, 研究普及, 発展に多大な貢献をされています。



## 今井 浩 (いまい ひろし) 氏

昭和33年11月21日生れ

〔現住所〕東京都文京区白山  
〔学歴〕昭和56年 東京大学工学部計数工学科卒業

昭和61年 同大学院工学系研究科情報工学専門課程修了, 工学博士取得。

〔職歴〕

昭和61年 九州大学工学部情報工学科助教授

平成2年 東京大学理学部情報科学科(現在, 理学系研究科情報科学専攻)助教授。

この間, カナダ McGill 大学訪問副教授, IBM T. J. Watson 研究所訪問研究員。

〔OR学会関係〕第1回学生論文賞 昭和58年度, 第16回文献賞 昭和63年度, 研究普及委員 平成3~5年度

〔著書等〕計算幾何学(共著, 共立出版, 1994), 計算幾何学・離散幾何学(共著, 朝倉書店, 1994), 計算代数と計算幾何(共著, 岩波, 1993), 計算とアルゴリズム(共著, オーム社, 1986)。

今井氏は, 最適化とアルゴリズムの研究において, ネットワークフロー・マトロイド・計算幾何などを軸に理論的成果と計算機実験解析を行ってきました。対象分野は, ITSを睨んだ交通システムでのOR技術の適用, 地理情報システムでの計算幾何の応用可能性の検討, さらにゲノム情報などの新たに最適化とアルゴリズム研究が望まれている場での数値計画法の展開など, 幅広い分野に渡っています。昭和63年度には線形計画の内点法の研究で本学会文献賞が与えられています。地理情報システム技術の研究動向とともに, 国際的な標準化活動を行っています。



## 亀山 三郎 (かめやま さぶろう) 氏

昭和10年1月31日生れ

〔現住所〕東京都国分寺市北町

〔学歴〕昭和38年3月 中央大学大学院商学研究科博士課程単位修了

〔職歴〕

昭和36年4月 中央大学商学部助手

昭和39年4月 中央大学理工学部管理工学科専任講師

昭和43年4月 中央大学商学部助教授

昭和49年4月 同教授

〔OR学会関係〕システム・ダイナミックス研究部会幹事 昭和51~52年度, システム・ダイナミックス研究部会主査 平成元年~3年度, 監事 平成6~7年度

〔著書等〕社会指標 (今村和男編, システム分析, 第4章, 日科技連出版社, 1977), 論文, システム・ダイナミックスの今日的意義 (1990), ソフトORとADの方法 (1994), 社会・公共システムデザインにおけるミクロとマクロ (1998), その他約30編, 発表多数

亀山氏は会計学 (管理会計) の専攻で, 昭和40年代の中頃, 今村和男先生が主査をしておられたPPBS研究部会に参加したのがOR学会入会の機縁となりました。その後昭和47年, ちょうどシステム・ダイナミックス (SD) による世界モデルのシミュレーション結果, ローマ・クラブ報告『成長の限界』が公刊された年にMITでE. B. Roberts教授にSDの指導を受けられました。帰国した昭和48年秋ローマ・クラブ東京大会が開かれ, その機会に島田俊郎先生によるSD研究部会発足の呼びかけがあり, 以来, OR学会では主としてSDの研究と普及に努力され, これまで文系といわれてきた社会科学諸分野のOR的アプローチによる地平の開拓に貢献されました。また学会監事として会計の専門の立場から学会決算書の監査など本学会の運営・発展にも貢献されました。



## 黒田 充 (くろだ みつる) 氏

昭和12年1月3日生れ

〔現住所〕東京都狛江市岩戸南

〔学歴〕昭和41年3月 早稲田大学大学院理工学研究科博士課程単位修了

昭和44年3月 工学博士 (早稲田大学)

〔職歴〕

昭和43年4月 青山学院大学理工学部経営工学科専任講師

昭和44年4月 同助教授

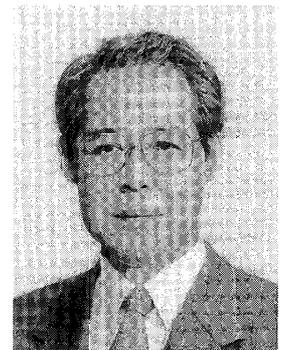
昭和53年4月 同教授, 現在に至る

昭和54年~昭和55年 ノースカロライナ州立大学オペレーションズ・リサーチ大学院客員教授

〔OR学会関係〕機関誌編集委員 昭和39~45年度, 理事 (無任所) 平成8~9年度, 会員増強委員, ORSJ 40企画推進委員, 第32回シンポジウム実行委員長, 日本OR学会・日本経営工学会合同研究部会主査などを歴任

〔著書等〕(著・共著)「生産システム」(日刊工業新聞社), 「ラインバランシングとその応用」(日刊工業新聞社), 「生産管理システムの設計」(日本能率協会), 「生産管理」(朝倉書店), (訳・共訳)「ワークデザイン」(建帛社), 「非線形最適化の技法」(培風館), 「整数計画法入門」(培風館), (分担執筆)「応用待ち行列事典」(廣川書店), 「OR事典」(日科技連), 「情報システムハンドブック」(培風館), 「経営工学ハンドブック」(丸善), 「生産管理ハンドブック」(日刊工業新聞社), その他, 論文・口頭発表多数

黒田氏は長年にわたり生産システム・生産管理の領域でのORを用いたモデル構成とアルゴリズムの研究に携わり, 多大の業績をあげてられました。また, 氏が在籍する青山学院大学の経営工学科および経営工学専攻において設立当初からオペレーションズ・リサーチならびにシミュレーションの教育に当たってこられ, 当該分野における幾多の人材の育成に寄与されました。近年には, OR学会を始めとして機械学会, 経営工学会, システム制御情報学会, 人工知能学会などに所属するスケジューリング研究者・技術者の連携組織であるスケジューリング学会の設立に携わり, 本領域の理論と実践の調和の取れた発展を目指して尽力し



ておられます。また、本学会の運営・発展にも理事、各種委員、研究部会主査、シンポジウム実行委員長として貢献されています。

### 逆瀬川 浩孝 (さかせがわ ひろたか) 氏

昭和19年6月4日生れ

〔現住所〕東京都中野区上鷺宮

〔学歴〕昭和44年 東京大学理学部数学科卒業

昭和64年 理学博士

〔職歴〕

昭和44年 文部省統計数理研究所入所

昭和55年 筑波大学社会工学系助教授

平成3年 同 教授

平成5年 早稲田大学理工学部工業経営学科教授

平成8年 早稲田大学理工学部経営システム工学科教授

〔OR学会関係〕庶務幹事 昭和53~54年度, IAOR委員 昭和54~55年度, 論文誌編集委員 昭和58~59年度, 機関誌編集委員 平成3~6年度, 理事(編集) 平成7~8年度, 表彰委員 平成7~10年度, 評議員 平成10年度~現在

〔著書等〕文科系のコンピュータ/応用篇(共著), 数理科学事典(共著)ほか共著5編, 論文30編, 発表多数。

逆瀬川氏は待ち行列理論, シミュレーション方法論, 乱数の生成などの分野で精力的な研究をされています。待ち行列理論では, とくに数値解法や近似について興味を持ち, 多くの貢献があります。OR学会においては, 6年に亘って機関誌の編集委員を務め, 特に最後の2年は編集委員長として, 理論と実践の融合をテーマに, 機関誌の質の向上と読みやすさの改善に意を尽くされました。



### 鈴木 久敏 (すずき ひさとし) 氏

昭和23年1月7日生れ

〔現住所〕神奈川県横須賀市岩戸

〔学歴〕昭和45年 東京工業大学理工学部制御工学科卒業

昭和47年 同大学院理工学研究科経営工学専攻修士課程修了

昭和51年 同博士課程単位取得退学

昭和63年 工学博士(東京工業大学)

〔職歴〕

昭和51年 東京工業大学工学部経営工学科助手

昭和63年 筑波大学社会工学系助教授

平成5年 同教授



この間, ブラジル合衆国国立宇宙研究所・マサチューセッツ工科大学・ワシントン大学の客員研究員, 埼玉大学・放送大学・日本女子大学・豊橋科学技術大学・東海大学・東京工業大学等の非常勤講師を歴任

〔OR学会関係〕第5回事例研究奨励賞受賞 昭和60年度, 庶務理事 平成2~3年度, 研究普及理事 平成7~8年度, 評議員 平成10年度~現在, その他, 庶務幹事・会員増強・財政問題検討・名簿刊行・長期計画・学会運営検討・基本問題検討・OR企業フォーラム企画・OR企業事例交流会企画などの各委員, 経営工学関連学会協議会・研究ネットワーク連合委員会の学会代表委員, 各種研究部会幹事, 研究発表会実行委員・同副委員長等を歴任。

〔著書等〕整数計画法と組合せ最適化(共編著, 日科技連出版), オペレーションズ・リサーチI(共著, 朝倉書店), 論文23編, 発表・講演多数。

鈴木氏は, 組合せ最適化の分野を中心に, 特にその生産・流通・交通への応用を意図した研究を進めると同時に, 近年は, 広くORのモデル化, 社会への普及を意図した研究を進めている。東京工業大学・筑波大学におけるOR教育, SSORやRAMP(数理計画法特設研究部会)の事務局長格としての活動を通して, 今日, OR学会内外で活躍する多くの若手研究者の育成に貢献した。また, 各種学会活動の企画・組織化に多大な力を発揮し, RAMPセミナーや企業事例交流会等の立ち上げは同氏の努力に拠るものである。理事・各種委員として学会運営の細部にわたって精通し,

人的ネットワークを活かして、本学会の運営・発展に多大な貢献をされています。

## 田村 坦之 (たむら ひろゆき) 氏

昭和15年3月9日生れ

〔現住所〕大阪府箕面市粟生  
外院

〔学歴〕昭和37年3月 大阪  
大学工学部精密工学科卒業  
昭和39年3月 同 大学院工  
学研究科原子核工学専攻修士  
課程修了

昭和46年1月 工学博士 (大  
阪大学)

〔職歴〕

昭和39年4月 三菱電機(株)入社, 中央研究所勤務

昭和46年10月 大阪大学工学部精密工学科助教授

昭和62年8月 同 教授

平成5年4月 同基礎工学部システム工学科教授

平成9年4月 同大学院基礎工学研究科システム人間  
系専攻教授, 現在に至る。

この間, スタンフォード大学大学院 Engineering-  
Economic Systems 学科留学, ケンブリッジ大学客員  
研究員, 統計数理研究所客員助教授・教授, 国際応用  
システム分析研究所 (IIASA) Associate 等を歴任

〔OR 学会関係〕第11回事例研究奨励賞 平成3年  
度, 関西支部運営委員 平成2~6年度, 関西支部副  
支部長 平成7~8年度, 会員増強委員会委員 平成  
9~10年度, 関西支部長 平成9~10年度, 論文誌編  
集委員 平成11年度~

〔著書等〕効用分析の数理と応用 (共著, コロナ社),  
Large-Scale Systems Control and Decision Making  
(編著, Marcel Dekker) 他共著, 編著, 分担執筆等  
16冊, 査読付学会誌論文87編, 国際会議論文75編,  
解説33編, 発表多数

田村氏は, 人間の価値観を定量化してモデル化し,  
人間の意思決定メカニズムを分析する効用理論の分野  
において, 期待効用理論では説明できない現象 (反例,  
パラドックス) のいくつかを統合的に説明することが  
可能な新しいモデルを提案し, 地域の環境アセスメン  
トや地球環境問題等の公共的意思決定支援への応用を  
試みてきました。また, 階層化意思決定法 (AHP)  
の分野において, 従来の AHP では説明が困難とされ  
てきた選好順位逆転現象を適切に説明することができ



る新しいモデルを提案しています。この他に, 組合せ  
多目的最適化問題の近似解法として, 遺伝的アルゴリ  
ズムと多目的計画法を併用したメタ戦略型解法を提案  
してフローショップ・スケジューリング問題への適用  
を試みるなど, システム計画論の分野で新しい理論・  
方法論を提案するとともに実システムへの応用につい  
てもいくつかの提案をして実用に供する研究成果を挙  
げてられました。これまで, いくつかの国際会議の  
プログラム委員長や世話役を務めるなどのボランティ  
ア活動にも従事し, 本学会に対しては, 長年関西支部  
の運営に携わり, その発展に大きく寄与されています。

## 勅使河原 可海 (てしがわら よしみ) 氏

昭和17年9月19日生れ

〔現住所〕川崎市宮前区神木  
本町

〔学歴〕昭和45年 東京工業  
大学大学院理工学研究科制御  
工学専攻博士課程修了

昭和45年 工学博士

〔職歴〕

昭和45年7月 日本電気(株)  
入社

平成3年6月 C&C 通信業システム事業部技師長

平成5年7月 技術企画部主席技師長

平成6年6月 技術戦略室長代理を兼務

平成7年5月 創価大学工学部教授

この間, ハワイ大学 ALOHA システム客員研究員  
〔OR 学会関係〕理事 (会計) 平成6~7年度, 財政  
問題検討委員 平成6~9年度, 「情報ネットワーク」  
研究部会主査 昭和63~平成2年度, 「オープンネッ  
トワークと情報活用」研究部会主査 平成8~10年度,  
その他企業サロン企画委員, 会員対策委員等を歴任  
〔著書等〕「コンピュータネットワーク」(共編著, 朝  
倉書店, 1983), 「次世代 LAN とネットワーク」  
(共著, 共立出版, 1995), 他分担執筆5冊, 査読付き  
論文21編, その他論文・解説・学会発表多数

勅使河原氏は, 長年コンピュータネットワーク関連  
のシステム開発および関連する国際・国内の標準化活  
動に携わってられました。特に, ネットワーク設計  
プログラムの開発や衛星データネットワークの開発・  
構築に関しては, 待ち行列やシミュレーションなどの  
OR 技法を活用しその成果を挙げてられました。ま  
た, 本学会においても, 会計理事をはじめ各種委員を



歴任され、研究部会主査として長期にわたり情報ネットワークの啓蒙にご尽力されるなど、学会の運営と発展に多大の貢献をされています。

### 福田 公明 (ふくだ こうめい) 氏

昭和26年10月23日生れ

〔現住所〕スイス連邦ローザンヌ市

〔学歴〕昭和49年 慶応義塾大学工学部管理工学科卒業

昭和51年 同大学工学研究科修士課程管理工学専攻修了

昭和57年 Waterloo 大学数学研究科博士課程組合せ理論

および最適化理論専攻修了 (Ph. D.)

〔職歴〕

昭和56年10月 東京工業大学理学部情報科学科助手

平成元年4月 筑波大学社会工学系講師

平成3年8月 同助教授

平成11年5月 スイス連邦工科大学チューリッヒ校数学科教授

〔OR 学会関係〕第21回文献賞 平成5年度

〔著書等〕論文, フリーソフトウェア, 研究発表多数

福田氏は、カナダ Waterloo 大学において J. Edmonds 教授指導の下に博士論文「有向マトロイド計画法」を発表し学位を得られました。凸多面体や線形計画法に付随する組合せ構造の研究において基本的な貢献をされた一方、最近では計算幾何学や列挙計算複雑度分野でも先駆的な仕事をされています。数年前からスイス連邦工科大学数学科に移られ、計算離散幾何学と最適化アルゴリズムに関する共同プロジェクトのリーダーとして、研究と教育に従事されています。その研究活動と成果 (論文, ソフトウェア, FAQ, 研究コロキウム案内等) は福田氏のホームページ <http://www.ifor.math.ethz.ch/ifor/staff/fukuda/fukuda.html> に詳しく紹介されています。



### 宮沢 政清 (みやざわ まさきよ) 氏

昭和21年11月3日生れ

〔現住所〕千葉県野田市大森井

〔学歴〕昭和46年 東京工業大学応用物理学科卒業

昭和51年 同大学大学院理工学研究科応用物理学専攻博士課程修了 (理学博士)

〔職歴〕

昭和51年 東京理科大学情報科学科講師

昭和57年 同助教授

平成元年 同教授

〔OR 学会関係〕論文誌編集委員 平成8年度～現在, 待ち行列研究部会主査 平成10年度～現在

〔著書等〕オペレーションズ・リサーチ II (共著, 朝倉書店, 1989年), 確率と確率過程 (近代科学社, 1993年), 査読付き論文50編, その他論文・解説等多数

宮沢氏は待ち行列モデルの確率過程論的な面からの研究に従事され、特に、点過程理論の応用については最初にその有用性に着目した1人であり、点過程理論による率保存則 (rate conservation law) の考案者として広く知られています。また、これらの研究結果をモデルの解析、比較、近似などに応用し数多くの成果を挙げてこられました。最近では待ち行列ネットワークの研究に従事し、モデルの新しい分類法、積形式ネットワークの拡張などに成果を挙げ、現在は非積形式ネットワークの研究に取り組まれています。また、待ち行列研究部会幹事・主査、論文誌編集委員として本学会の運営と発展に貢献されています。



### 室田 一雄 (むろた かずお) 氏

昭和30年4月生れ

〔現住所〕京都府京都市岩倉

〔学歴〕昭和55年 東京大学大学院計数工学専攻修士課程修了

昭和58年 工学博士

〔職歴〕

昭和55年4月 東京大学工学部計数工学科助手

昭和58年6月 筑波大学社会工学系講師



昭和61年12月 東京大学工学部計数工学科助教授  
平成5年4月 京都大学数理解析研究所助教授  
平成7年4月 同 教授  
平成10年4月 東京大学大学院工学系研究科客員教授  
〔OR学会関係〕第22回文献賞 平成6年度  
〔著書等〕Systems Analysis by Graphs and Matroids (Springer, 1987), 数値計算の基礎 (共著, 岩波, 1993), 線形計算 (共著, 岩波, 1994), 数値計算法の数理 (共著, 岩波, 1994), 論文若干, 講演多数.

山田氏は, 工学における基礎的諸問題に対する数学的手法 (主として代数的・組合せ論的なもの) について幅広く研究活動をされており, とくに, 離散構造をもつ工学システムとマトロイド理論の関わりを中心的な研究テーマとされています. システム解析の道具として混合行列の理論を構築され, その集大成として Matrices and Matroids for Systems Analysis と題する著書が近々刊行の予定となっています.

平成6年度には, その成果の一部に対して本学会文献賞が授与されました. 最近では, 離散最適化と非線形最適化の融合を目指して, マトロイド理論を進展させ, 離散凸解析の理論を構築しておられます.

## 山田 郁夫 (やまだ いくお) 氏

昭和13年6月5日生れ

〔現住所〕東京都江東区越中島

〔学歴〕昭和36年 慶応義塾大学工学部電気工学科卒業

〔職歴〕

昭和36年4月 三菱電機(株)入社 中央研究所配属

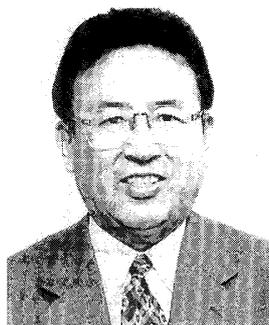
昭和51年10月 同社神戸製作所系統システム設計課長

昭和55年10月 三菱電機コントロールソフトウェア(株)取締役技術部長

平成元年6月 三菱電機本社技術管理部長

平成5年6月 同社技術研修所長

平成6年12月 (株)三菱総合研究所常務取締役



〔OR学会関係〕理事(会計) 平成4~5年度, 副会長 平成8~9年度, 評議員 平成2~3年度・平成6~7年度・平成10年度~現在, 財政問題検討委員会委員長 平成7~10年度, 会員増強委員会委員長 平成9年度, その他創立40周年記念事業企画委員会委員, 同会計委員会委員, OR企業フォーラム企画委員会委員等を歴任

〔著書等〕「ソフトウェアの奥の細道」(共著, 日本規格協会, 1990), 「おはなしソフトウェア産業革命」(共著, 日本規格協会, 1994), 論文19編, 発表・講演多数

山田氏は電力システムの計算機制御システムの研究開発に長年従事され, 情報処理学会の理事, 監事, 電気学会の副会長などを歴任. 技術管理, 技術経営, 工学教育の分野でも活動し, 日本工学教育協会の監事, IEEE Engineering Management Society Tokyo chapter の chairman でもある.

本学会においては, 副会長・理事・評議員・委員を歴任され, 特に学会の財政面からの活動により, 本学会の発展に貢献されています.